

日常生活圏域ニーズ調査の結果について

平成 26 年 8 月 匝瑳市

I. 高齢者の現状について

家族構成（報告書 5 ページ）

- ・高齢者の 8 割以上が「家族など同居」と回答している。

同居人数と同居者（報告書 5 ページ）

- ・同居者の人数は「2 人」が最も多くなっている。
- ・同居者は「配偶者」が最も多くなっている。

日中一人になること（報告書 6 ページ）

- ・7 割以上が“ある”（よくある+たまにある）と回答している。

介護が必要になったときの暮らし方（報告書 53 ページ）

- ・約 4 割が「自宅（借家も含む）で、特に改造などはせずに住みたい」と回答している。
- ・約 15%が「自宅（借家も含む）を改造し、住みやすくして住みたい」と回答している。

課題

高齢者の二人暮らしや日中一人きりになることが多くあること、さらに介護が必要になったときでも自宅で暮らしたいと考えている人が多いことから、できる限り、現在のいる場所で生活と続けられるよう、地域ぐるみの高齢者支援を考えていく必要があります。

II. 介護・介助が必要な方について

介護・介助の必要性（報告書 6 ページ）

- ・7 割弱が「必要ない」と回答している。
- ・2 割弱が“必要”（介護介助は必要だが現在は受けていない+受けている）と回答している。

介護・介助が必要になった主な原因（報告書 6 ページ）

- ・「高齢による衰弱」が最も多く、次に「脳卒中」「認知症」「骨折・転倒」が多くなっている。

主に介護する人の続柄（報告書 7 ページ）

- ・主に多いのが、「配偶者」「娘」「介護のサービスヘルパー」となっている。

主に介護する人の年齢（報告書 7 ページ）

- ・65 歳以上が 4 割を超えている。

介護・介助を受けている内容（報告書 7 ページ）

- ・4 項目が 5 割を超えており、他の内容も回答が多くなっている。

課題

介護・介助が必要になった主な原因は、高齢による衰弱・脳卒中・認知症・骨折・転倒が多いことや介護者が高齢であること、介護・介助の内容が生活全般になっていることから、医療と介護によるサービスの充実に取組みと共に、介護予防への更なる取組が必要です。

Ⅲ.日常生活等について

外出を控えている（報告書 12 ページ）

・3 割弱が「はい」と回答している。

外出を控えている理由（報告書 12 ページ）

・「足腰の痛み」で外出を控えていると回答している人が 5 割以上と多くなっている。

買物・散歩に出る頻度（報告書 12 ページ）

・買物も散歩も、約 5 割が週に 2 日以上外出していると回答している。

・「週 1 日未満」と回答している人は、買物では 1 割強、散歩では 2 割強となっている。

外出する際の交通手段（報告書 13 ページ）

・「自動車(自分で運転)」が最も多く、次に「徒歩」「自転車」「自動車(人に乗せてもらう)」が多くなっている。

転倒に対する不安（報告書 16 ページ）

・約半数が「はい」と回答している。

この 1 年で転んだこと（報告書 16 ページ）

・3 割弱が「はい」と回答している。

以前に比べて歩く速度が遅くなった（報告書 17 ページ）

・半数以上が「はい」と回答している。

定期的な歯科受診（報告書 20 ページ）

・約 6 割が「いいえ」と回答している。

入れ歯の使用（報告書 20 ページ）

・約 6 割が「はい」と回答している。

1 日の食事の回数（報告書 21 ページ）

・「朝昼晩の 3 食」と回答している人がほとんど。

食事を抜くこと（報告書 22 ページ）

・「ほとんどない」が最も多いが、約 1 割は抜いたことがあると回答している。

物忘れがあると言われる（報告書 23 ページ）

・約 25%の人が「はい」と回答している。

今日が何月何日か分からない（報告書 24 ページ）

・3 割弱のひとが「はい」と回答している。

その日の活動の判断（報告書 25 ページ）

・8 割以上が「はい」と回答している。

IV.社会参加について

生きがいの有無（報告書 35 ページ）

・7割以上が「はい」と回答している。

収入のある仕事（報告書 39 ページ）

・約1割が収入のある仕事をしている（「週4日以上」+「週2～3回」+「週1回」）と回答している。

あなたが病気で寝込んだ時に看てもらえる人（報告書 40 ページ）

・「配偶者」が最も多く、子どもや兄弟姉妹・親戚・親・孫など、親族との回答がほとんどを占めている。

家族以外の相談する相手（報告書 41 ページ）

・「そのような人はいない」が約3割と最も多く、次に「医師・歯科医師・看護師」となっている。

友人・知人と会う頻度（報告書 42 ページ）

・約4割が週に1回以上会っていると回答している。

よく会う友人・知人の関係（報告書 42 ページ）

・「近所・同じ地域の人」が7割弱と最も多く回答している。

課題

家族以外で看てもらう相手、相談をする相手があまりいないなかで、近所・同じ地域の人によく会っているということから、近所・同じ地域の人を介して社会参加を促すことができると考えられます。また、地域の中で高齢者が社会参加でき、高齢者を支える担い手としても活躍できる仕組みの充実に取り組む必要があります。

V.健康について

健康状態（報告書 43 ページ）

・健康（「とても健康」+「まあまあ健康」）と回答している人が7割弱となっている。

治療中または後遺症のある病気（報告書 43 ページ）

・「高血圧」が最も多く、次に「糖尿病」と「骨粗しょう症、関節症など」と「目の病気」が多くなっている。

通院の有無（報告書 44 ページ）

・8割弱が「はい」と回答している。

通院の頻度（報告書 44 ページ）

・月1回以上通院している人が7割以上となっている。

通院時の介助（報告書 45 ページ）

・通院している人の約2割が、通院時の介助を必要としている。

課題

健康だと意識していますが、ほとんどの方が月1回以上の通院をしています。高齢者が今後も元気に生活できるように、介護予防に努めていくことが必要です。

VI.高齢者サービスについて

地域包括支援センターの認知度（報告書 49 ページ）

- ・「いいえ」と回答している人が半数以上となっている。

介護予防教室の認知度（報告書 49 ページ）

- ・「いいえ」と回答している人が半数以上となっている。

生活上の心配事（報告書 51 ページ）

- ・特に「自分の健康・介護」と「家族の健康・介護」を回答している人が多くなっている。

「あったらよい」「利用してみたい」高齢者サービス（報告書 52 ページ）

- ・3 割弱が「移送・送迎サービス」と回答している。
- ・約4割が無回答(特になし)と多くなっている。

課題

地域包括支援センターの認知度、介護予防教室の認知度が高いとは言えません。地域包括支援センターは、今後、地域包括ケアシステムの中核となることから、役割を果たすためにも市民への十分な認知度を高めていく必要があります。

生活上の心配事として、自身を含めた家族の健康・介護が多く、「あったらよい」「利用してみたい」高齢者サービスでは「移送・送迎サービス」が多く、さらに、先述した夫婦二人暮らしが多く、今後も自宅で暮らしたいということから、在宅サービス・生活支援サービスを中心に利用者の意向を踏まえたサービスの量や質を確保するひつようがあります。